

ポルトガル月報

2018年6月

(本報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政・外交】★「ポルトガルの日」の式典を米国等で開催／★レベロ・デ・ソウザ大統領がトランプ米大統領と会談

【経済】★2017年度の対ポルトガル直接投資の増加

内政・外交

●コスタ首相が次期スペイン首相に祝意伝達

6月1日、コスタ首相はツイッターを通じて、スペインの次期首相となるサンチェス社会労働党書記長に祝意を表明し、両国関係は最良であり、こうした関係が継続することを確信している旨を伝えた。

●コスタ首相がカーボヴェルデ首相と会談

6月4日、コスタ首相はポルトガルを訪問したジョゼ・ユリス・ドウ・ピナ・コレイア・エ・シルバ・カーボヴェルデ首相と会談を行った。7月、ポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）の閣僚会合・首脳会合がカーボヴェルデで開催される予定であり、両首脳は同会合の主な議題やCPLP諸国間の協力等について意見交換を行った。

●コスタ首相がルーマニア首相と会談

6月6日、コスタ首相はポルトガル訪問したヴィオリカ・ダンチラ・ルーマニア首相と会談した。ルーマニアは2019年上半期にEU理事会議長国を務める予定であり、両首相はEUが直面している各種課題（英国のEU離脱交渉、多年度財政枠組み、ユーロ圏改革、及び移民問題等）について意見交換した。また、二国間で進められている貿易・投資・保健・科学等の分野における協力について意見交換した。



【写真】ヴィオリカ・ダンチラ首相とコスタ首相（ポルトガル政府プレスリリースより転載）

ポルトガル月報

●ヴィトリノ海洋大臣が中国訪問

6月6日～8日、ヴィトリノ海洋大臣が中国を公式訪問した。6日には上海水産集団の唐文華副総裁会長及び中国遠洋運輸集団の代表と会談した。また、「世界海の日」に当たる8日には同国の国家海洋局よりポルトガル・中国関係の強化に中心的な役割を果たしてきたヴィトリノ大臣に対して「海洋のグローバル・アンバサダー」賞が与えられた。同賞は、海洋分野における功績の大きい人物に与えられるものであり、外国人が受賞するのは初めてとなる。



【写真】授賞式の様子（海洋省のフェイスブックページより転載）

★「ポルトガルの日」の式典を米国等で開催

6月9日～10日、レベロ・デ・ソウザ大統領とコスタ首相は、「ポルトガルの日」（国祭日：16世紀の詩人カモンイスの命日）の記念式典をアソーレス自治州のポンタデルガーダで開催した。その後、大統領と首相は米国に移動し、10日夕方にボストン市でも式典を開催した。約150万人の在米ポルトガル系住民のうち、その最大規模のコミュニティがボストンにある。また同日夜、大統領と首相はロードアイランド州のプロビデンスで「水と炎のフェスティバル」に参加して式典を祝った。11日午前、レベロ・デ・ソウ

ザ大統領はマサチューセッツ州議会で「ポルトガルの遺産記念日」イベントに出席、他方、コスタ首相は11日にマサチューセッツ工科大学を訪問した後、12日にはカリフォルニア州を訪問して、シスコ本社、スタンフォード大学、13日にはグーグル本社を訪問、14日にはブラウン・カリフォルニア州知事と会談した。また同首相は、15日にはニュージャージー州を訪問、マーフィー知事と会談したほか、ニューアーク市のポルトガル人コミュニティと触れあった。「ポルトガルの日」の式典の外国開催は一昨年のパリ、今年のブラジル（サンパウロ及びリオ・デ・ジャネイロ）に続いて3回目。今回の米国での式典は現地ポルトガル人コミュニティによる「米国ポルトガル月間」と重なり、ポルトガルと米国の二国間関係を深めるための行事が12の州及び60の市で開かれた。



【写真】ボストンの式典に出席したレベロ・デ・ソウザ大統領とコスタ首相（大統領府HPより転載）

●レベロ・デ・ソウザ大統領がプーチン大統領と会談

6月20日、2018 FIFAワールドカップロシア大会のポルトガル代表の試合を観戦するためにロシアを訪問したレベロ・デ・ソウザ大統領は、試合前にモスクワでプーチン大統領と会談した。プーチン大統領は、「ポルトガル代表はヨーロッパの中で最も優れているチームの一つで、ロシアでもたくさんのサポーターがいる」と述べた。レベロ・デ・ソウザ大統領は同大会でポルトガルとロシアが決勝トーナメントで対戦する可能性について触れ、「試合の結果がどうであれ、我々の外交関係に影響を及ぼさないことを願っている」と述べた。これに対し、プーチン大統領は「我々の関係にダメージはないであろう」と応え、サッカーが世界の国と人々を結びつける魅力を持っていると述べた。

【写真】レベロ・デ・ソウザ大統領とプーチン大統領（大統領府HPより



転載)

●リスボン市が「2020年緑の欧州都市賞」を受賞

6月21日、リスボン市は欧州委員会の「2020年緑の欧州都市賞（European Green Capital Award for 2020）」を受賞した。欧州委員会によれば、リスボン市の持続的土地利用、持続的都市交通機関、環境に配慮した成長とイノベーション、気候変動対策、及び廃棄物対策における取組みが評価されたもの。

●サントス・シルヴァ外相が訪米

6月21日～25日、サントス・シルヴァ外相が米国を公式訪問した。21日午前にはポンペオ米務長官、午後にはボルトン米大統領補佐官と会談し、22日及び23日には「発展のためのポルトガル米財団（FLAD）」主催の開会式に出席し、25日には液化天然ガスに関する会合に参加した。同外相はインタビューに答え、ポルトガル及びEU諸国は「大西洋の絆の重要性を認識すべきであり、この絆を弱めるべきではない。北米と欧州の民主主義国家間の同盟は、気候変動、貿易等の重要な分野での意見を異にする部分はあるが、国際秩序のためにきわめて重要である」と述べた。

【写真】サントス・シルヴァ外相とポンペオ米務長官（ポルトガル政府プレスリリースより転載）



★レベロ・デ・ソウザ大統領がトランプ米大統領と会談

6月27日、レベロ・デ・ソウザ大統領はトランプ米大統領とホワイトハウスで会談した。レベロ・デ・ソウザ大統領は、会談後、記者団に対し、「個人的にはじめから最後まで暖かい会談であったという印象である。この暖かさは両国の約240年間の歴史的な友好関係に加え、米国在住の約150万人のポルトガル人の存在も大きい」等述べた。また、二国間関係については、防衛及びエネルギーについて意見交換した旨述べると共に、「ポルトガルは欧州の一員であるのみならず、米国とも歴史的な同盟関係を持っていることから、

ポルトガルが、他の欧州諸国にはできないような、米
国と欧州との架け橋としての役割を果たせる」旨述べ
た。



【写真】レベロ・デ・
ソウザ大統領とトラ
ンプ大統領（大統領府H
Pより転載）

●ポルトガルとスペインが市民保護分野の協力拡大 に合意

6月26日、オエイラス市で開催された「第13回ポ
ルトガル・スペイン市民保護合同委員会」の終了後、
ポルトガルとスペインは市民保護分野の協力拡大につ
き合意書に署名した。同合意は、政治的要請無しに両
国の市民保護局が国境を越えて活動できる範囲を現状
の5キロメートルから25キロメートルに拡大するも
のである。メディアの取材に対し、カブリタ内務相は、
本合意は両国間協力の好例であり、ポルトガル側であ
れスペイン側であれ、両国市民保護当局は即時の相互
扶助により火災等から国境地帯の市民の安全を保障で
きるようになる」等述べた。

●コスタ首相の欧州理事会出席

6月28日、コスタ首相はブリュッセルで開催され
た欧州理事会（28日～29日）に出席した。コスタ
首相は会議後、「今回の首脳会合は非常に難しかった。
合意文書上のコンセンサスでは、現在、価値観及び移
民問題に関して欧州連合を脅かしている深い分裂を偽
装できない」と述べた。主な争点となった移民問題に
関して、コスタ首相は、ポルトガルは（移民・難民等
に対応する）管理センターの設置を受け入れる予定は
ないとしつつ、（移民問題で）「我々はアフリカの開発
支援を積極的に行っている国の1つであり、本日アフ
リカのためのEU緊急信託基金に対する拠出額を18
0万ユーロから500万ユーロに引き上げた」と発表
した。



【写真】欧州理事会会合
でマクロン大統領と会話
するコスタ首相（同首相

の公式ツイッターより転載）

●国際移住機関（IOM）事務局長にヴィトリノ氏 が選出

6月29日、国際移住機関（IOM）事務局長選挙
に立候補していた、グテーレス政権時代の閣議担当大
臣兼国防大臣であったアントニオ・ヴィトリノ氏（元
欧州委員（司法・内務担当））氏が、ジュネーブで開催
されたIOM臨時総会において次期事務局長に選出さ
れた。

経済

★2017年度の対ポルトガル直接投資の増加

6月19日、アーンスト・アンド・ヤング社が「ポ
ルトガルの魅力度2017」報告書を公表した。同報
告書によると、2017年度の対ポルトガルの新規の
直接投資プロジェクトは95件で、前年の59件より
61%増加し、7657人の新たな雇用が生み出され
た。分野別では、工業、研究開発、及び営業とマーケ
ティングが上位を占めた。また、地域別では、シスコ、
シーメンス、グーグル等の進出が決まったリスボン市
周辺が最も魅力的だとされている一方で、ユーロネク
スト、ナティクシス、ボツシュ、ヴェスタス、ザラン
ド等の進出が決まったポルト市は、スタートアップ企
業にとって、欧州の中で最も友好的な街となっている。
同報告書の結果について、カブラル経済相は、「直接
投資プロジェクトが約60%増加したことは、ポルト
ガルが現在、外国投資家にとって非常に魅力的で、高
い競争力を持っていることを示している」と述べた。

●NEDOスマートコミュニティ実証事業運転開始 式

6月29日、NEDO（新エネルギー・産業技術総
合開発機構）スマートコミュニティ実証事業運転開始
式がリスボン市庁舎で開催された。同式典には、メデ
ィーナ・リスボン市長、新美日本国大使、表NEDO理事、
ポンセ・デ・レアオンLNEG（ポルトガル国立エネルギ
ー地質研究所）所長、ホーレルバック・ダイキンヨー
ロッパ会長等が参加した。

同事業は、NEDOからの委託でダイキン工業株式
会社が、リスボン市及びLNEGの協力により推進されて

いるプロジェクトであり、リスボン市庁舎などリスボン市内4カ所の施設に設置したデマンドレスポンス機能および蓄冷機能付きのビル用マルチエアコンを用いて、当地の電力小売事業者やバーチャルパワープラント（VPP）事業者と協業し、電力の需給状況に応じて空調の電力消費を自動で制御する実証を行うもの。プロジェクトは2019年末まで続く予定。

リスボン港のクルーズターミナルの「ヨーロッパの主要クルーズ港（Europe's Leading Cruise Port）2018」他。

（了）

社会

●2017年度のポルトガルの外国人住民の増加

6月27日、外国人国境管理局（SEF）が「移民、国境及び庇護報告書」を公表した。同報告書によると、2017年度の外国人住民の総数は前年比6%増の421,711人で、国籍別のトップ10は以下のとおり。

1位	ブラジル	85,426
2位	カーボ・ヴェルデ	34,986
3位	ウクライナ	32,453
4位	ルーマニア	30,750
5位	中国	23,197
6位	英国	22,431
7位	アンゴラ	16,854
8位	フランス	15,319
9位	ギニアビサウ	15,198
10位	イタリア	12,925

2017年度の新規の居住許可数は61,413（前年比30.9%増）で、欧州内の申請者（家族を含む）が27,340人の29%を占め、特にイタリア、フランス及び英国からの移住者が目立った。また、ゴールデンビザの数は1,292で、国籍別では中国（538）、ブラジル（226）、南アフリカ（81）、トルコ（78）、ロシア（47）が上位を占めた。

●ポルトガルが世界旅行賞で36の賞を獲得

6月30日、ギリシアのアテネで開催された世界旅行賞（WorldTravel Awards）の式典で、ポルトガルが36の賞を獲得。主な賞はポルトガルの「ヨーロッパの主要観光地（Europe's Leading Destination）2018」、リスボン市の「ヨーロッパの主要観光都市（Europe's Leading City Destination）2018」、